

特集：世界の大変動と危機に対して教育学は何ができるか

周知のように、世界はいま大きな変動と危機にさらされている。

第一に、化石燃料の使用をはじめとする人間の活動が、地球の気候のありようを変えつつある。干ばつ、水不足、大規模火災、海面上昇、洪水、極地の氷の融解、暴風雨、生物多様性の減少など危機的な変化が、人間を含むこの地球上のあらゆる生物への脅威となっている。

第二に、上記の背景や要因ともなっている資本主義の構造的帰結は、先進諸国による途上国の搾取、先進諸国内部の経済システムの行き詰まりなどをもたらしており、かつ経済活動のグローバル化は一部地域の経済的破綻が資源や産物の供給や金融網を通じて広域的に波及する不安定化・脆弱化をもたらしている。

第三に、権威主義的体制をもつ国家が存在感を増しており、宗教対立とも相まって近隣国への武力を通じた侵略や自国内も含む大量虐殺が現実のものとなっている。民主主義の外見をとりながらも選挙不正などを通じた実質的独裁化の途をたどっている国家も存在し、政治体制を原因とする難民・移民の増加は排外的姿勢につながっている。こうした課題に対抗すべく構想され模索されてきた国家による国際的連携の枠組みの存在意義もあらためて問われ、人権の理念や民主的社会への希求を起点に展開してきた教育学研究にも根底的な問題を突きつけている。

第四に、国家間で相違はあるが、いまだジェンダーや障害、エスニシティなどに関する平等化の実現ははるかに遠い状況にあり、困難を抱える層は様々な機会の格差のもとで放置されている。

こうした大変動と危機に対して、教育学はこれまで何をなしとげ、いまだ何をなしとげられていないのか。今後、教育学が取り組むべき研究と実践の課題は何か。大きな視野と批判的視点のもとで、過去・現在・将来の教育学と世界のあり方を根底から議論する論考を広く募りたい。

伶俐にして果敢な投稿を期待する。

なお、この特集は、これまで4回にわたり募集してきた「新しい教育学の模索と挑戦」に代わるものであり、前身の特集と同様に一般投稿論文のみを受け付ける。

締切：2025年1月31日17時00分必着

送付先：日本教育学会機関誌編集委員会

* 本特集への投稿の際には、オンライン投稿システム<SOLTI>の日本語の入力項目【論文タイトル ※】のタイトル頭に「特集・」をつけること。そのほかは、最新の「投稿要領」を参照のうえ、投稿すること。